

公益財団法人図書館振興財団  
第18回 子どもの本 この1年を振り返って 2017年 ブックリスト  
■ヤングアダルトの部■

公益社団法人 全国学校図書館協議会  
スーパーバイザー 高見 京子

◆新しい芽吹きと古典の価値

1 「若者」の活躍

- ・将棋界、藤井聡太君の活躍
- ・登美丘高校ダンス部への注目
- ・第29回小説すばる新人賞—『星に願いを、そして手を。』高校生の青羽悠君受賞
- ・「さよなら、田中さん」のヒット—中学生の鈴木るりかさん

2 古典復刊と工夫

- ・『君たちはどう生きるか』の爆発的なヒット
  - 名作を紹介し続ける努力
  - 原文の尊重
  - 時代に合った工夫

3 語り継ぐ大切さ

- ・歴史の継承
- ・「語らずにはいられない」思い

4 YAの読書をめぐって

- ・「活字離れ」「読書離れ」のうそ
- ・「子供の読書活動推進に関する有識者会議」
- ・大学入試改革

◆フィクションについて

- ・メディアミックス
- ・もっとワクワクドキドキする作品を。
- ・参照—「埼玉県の高校図書館司書が選んだイチオシ本」

◆ノンフィクション

- ・出版社の努力
- ・参照—岡山の高校図書館プレゼンツ「でーれーBOOKS」

■フィクション

<YAが主人公>

★	YA	『さよなら、田中さん』/鈴木 るりか・著/小学館/2017. 10/¥1200/(913. 6)
★	高校	『星に願いを、そして手を。』/青羽 悠・著/集英社/2017. 2/¥1600/(913. 6)
★	YA	『もうひとつのWONDER』/R.J.パラシオ・作, 中井 はるの・訳/ほるぷ出版/2017. 7/¥1500/(933. 7)
★	YA	『か「」く「」し「」ご「」と「」』/住野 よる・著/新潮社/2017. 3/¥1400/(913. 6)
★	中	『河童のユウタの冒険 上・下』(福音館創作童話シリーズ)/斎藤 惇夫・作/福音館書店/上・下共に2017. 4/上・下共に¥2500/(913. 6)
★	高校	『かがみの孤城』/辻村 深月・著/ポプラ社/2017. 5/¥1800/(913. 6)
★	YA	『九時の月』/デボラ・エリス・作, もりうち すみこ・訳/さ・え・ら書房/2017. 7/¥1600/(933. 7)
★	高校	『紫式部の娘。賢子はとまらない!』/篠 綾子・作/静山社/2017. 9/¥1200/(913. 6)
★	YA	『青春は燃えるゴミではありません』/村上 しいこ・著/講談社/2017. 7/¥1500/(913. 6)
	小高	『わたしも水着をきてみたい』/オーサ・ストルク・作, きただい えりこ・訳/さ・え・ら書房/2017. 10/¥1200/(949. 83)
	中学	『僕は上手にしゃべれない』(teens' best selections)/椎野 直弥・著/ポプラ社/2017. 2/¥1500/(913. 6)
	中学	『キャプテン 1~3』(部活系空色ノベルズ)/ちば あきお・原作, 山田 明・小説/学研プラス/2017. 3~/1~3全て¥1300/(913. 6)
	中学	『オオカミを森へ』(Sunnyside Books)/キャサリン・ランデル・作, 原田 勝・訳/小峰書店/2017. 9/¥1700/(933. 7)
	中学	『カーネーション』(くもんの児童文学)/いとう みく・作/くもん出版/2017. 5/¥1400/(913. 6)
	中学	『ハッチとマーロウ』/青山 七恵・著/小学館/2017. 5/¥1700/(913. 6)
	中学	『見上げた空は青かった』/小手鞠 るい・著/講談社/2017. 7/¥1300/(913. 6)
	中学	『15歳、ぬけがら』/栗沢 まり・著/講談社/2017. 6/¥1300/(913. 6)
	YA	『100時間の夜』/アンナ・ウォルツ・作, 野坂 悦子・訳/フレーベル館/2017. 3/¥1450/(949. 33)
	YA	『青いスタートライン』(ノベルズ・エクスプレス)/高田 由紀子・作/ポプラ社/2017. 7/¥1300/(913. 6)
	YA	『明日のひこうき雲』(teens' best selections)/八束 澄子・著/ポプラ社/2017. 4/¥1400/(913. 6)
	YA	『君が夏を走らせる』/瀬尾 まいこ・著/新潮社/2017. 7/¥1500/(913. 6)

	YA	『恋する熱気球』/梨屋 アリエ・著/講談社/2017. 8/¥1200/(913. 6)
	YA	『夜明け告げるルーのうた』/湯浅 政明・原作, 三萩 せんや・著/KADOKAWA/2017. 5/¥1200/(913. 6)

### <古典復活>

★	YA	『漫画君たちはどう生きるか』/吉野 源三郎・原作, 羽賀 翔一・漫画/マガジンハウス/2017. 8/¥1300/(159. 5)
★	YA	『文豪ノ怪談ジュニア・セレクション 呪』/小泉 八雲ほか・著/汐文社/2017. 3/¥1600/(913. 68)
★	YA	『竹久夢二童話集』/竹久 夢二・著/パンローリング/2017. 5(「草の実」(実業之日本社刊)と「春」(研究社刊)の改題, 合本)/¥1400/(913. 6)
	中学	『アーサー王の世界 1~2』/齊藤 洋・作/静山社/2016. 10~/1~2共に¥1300/(933)
	YA	『ラノベ古事記 日本の神様とはじまりの物語』/小野寺 優・訳著/KADOKAWA/2017. 7/¥1400/(913. 2)
	YA	『名作落語50席がマンガで読める本』/東 園子・著/KADOKAWA/2017. 3/¥1200/(779. 13)

### <漫画・絵本・SF>

★	高校	『禁じられたジュリエット』/古野 まほろ・著/講談社/2017. 3/¥1600/(913. 6)
★	高校	『君の知らない方程式』(BISビブリアバトル部)/山本 弘・著/東京創元社/2017. 8/¥1800/(913. 6)
★	中学	『世界が若かったころ ジャック・ロンドン ショートセレクション』(世界ショートセレクション)/ジャック・ロンドン・作, 千葉 茂樹・訳/理論社/2017. 1/¥1300/(933. 7)
★	YA	『あるかしら書店』/ヨシタケ シンスケ・著/ポプラ社/2017. 6/¥1200/(726. 6)
★	YA	『生きる』(日本傑作絵本シリーズ)/谷川 俊太郎・詩, 岡本 よしろう・絵/福音館書店/2017. 3/¥1300/(絵本)
★	YA	『そのままのキミがすき』/きむら ゆういち・作/あすなろ書房/2017. 2/¥850/(726. 6)
	高校	『あとは野となれ大和撫子』/宮内 悠介・著/KADOKAWA/2017. 4/¥1600/(913. 6)

### <大人も一緒に>

★	高校	『今日の人生』/益田 ミリ・著/ミシマ社/2017. 4/¥1500/(914. 6)
★	YA	『もし文豪たちがカップ焼きそばの作り方を書いたら』/神田 桂一ほか・著/宝島社/2017. 6/¥980/(913. 7)

★	高校	『キラキラ共和国』/小川 糸・著/幻冬舎/2017. 10/¥1400/(913. 6)
★	YA	『たゆたえども沈まず』/原田 マハ・著/幻冬舎/2017. 10/¥1600/(913. 6)
★	高校	『失われた地図』/恩田 陸・著/KADOKAWA/2017. 2/¥1400/(913. 6)
★	高校	『チェーン・ピープル』/三崎 亜記・著/幻冬舎/2017. 4/¥1600/(913. 6)
★	高校	『百貨の魔法』/村山 早紀・著/ポプラ社/2017. 10/¥1600/(913. 6)
	YA	『ヒーロー 家族の肖像』/ロート・レープ・著, 新朗 恵・訳/西村書店/2017. 5/¥1500/(943. 7)
	高校	『騎士団長殺し 第1部～第2部』/村上 春樹・著/新潮社/第1部～第2部共に2017. 2/第1部～第2部共に¥1800/(913. 6)
	高校	『アキラとあきら』/池井戸 潤・著/徳間書店/2017. 5/¥1000/(913. 6)
	高校	『素敵な日本人 東野圭吾短編集』/東野 圭吾・著/光文社/2017. 4/¥1300/(913. 6)
	高校	『AX』/伊坂 幸太郎・著/KADOKAWA/2017. 7/¥1500/(913. 6)
	高校	『八月の光 失われた声に耳をすませて』/朽木 祥・作/小学館/2017. 7(「八月の光・あとかた」(小学館文庫 2015年刊)の改題増補)/¥1400/(913. 6)
	高校	『淳子のでっぺん』/唯川 恵・著/幻冬舎/2017. 9/¥1700/(913. 6)
	高校	『銀河鉄道の父』/門井 慶喜・著/講談社/2017. 9/¥1600/(913. 6)

## ■ノンフィクション

### <人生・社会>

★	YA	『ナビラとマララ 「対テロ戦争」に巻き込まれた二人の少女』/宮田 律・著/講談社/2017. 3/¥1200/(289. 2)
★	高校	『虹色のチョーク 働く幸せを実現した町工場の奇跡』/小松 成美・著/幻冬舎/2017. 5/¥1300/(589. 73)
★	高校	『対話する社会へ』(岩波新書)/暉峻 淑子・著/岩波書店/2017. 1/¥860/(361. 45)
★	高校	『ドリーム NASAを支えた名もなき計算手たち』(ハーパーBOOKS)/マーゴット・リー・シエタリー・著, 山北 めぐみ・訳/ハーパーコリンズ・ジャパン/2017. 8/¥1000/(538. 9)
★	YA	『女の子が生きていくときに、覚えていてほしいこと』/西原 理恵子・著/KADOKAWA/2017. 6/¥1100/(914. 6)
★	YA	『これを知らずに働けますか？ 学生と考える、労働問題ソボクな疑問30』(ちくまプリマー新書)/竹信 三恵子・著/筑摩書房/2017. 7/¥840/(366. 021)
★	中学	『ファニー13歳の指揮官』/ファニー・ベン＝アミ・著, 伏見 操・訳/岩波書店/2017. 8/¥1500/(929. 736)

★	高校	『ある奴隷少女に起こった出来事』(新潮文庫)/ハリエット・アン・ジェイコブズ・著, 堀越 ゆき・訳/新潮社/2017. 7(大和書房 平成25年刊の加筆, 修正)/¥630/(289. 3)
★	高校	『マーシャの日記 ホロコーストを生きのびた少女』/マーシャ・ロリニカイト・著, 清水 陽子・訳/新日本出版社/2017. 8/¥2200/(985)
★	YA	『知らなかった、ぼくらの戦争』/アーサー・ビナード・編著/小学館/2017. 4/¥1500/(210. 75)
★	YA	『働くってどんなこと？人はなぜ仕事をするの？』(10代の哲学さんぽ)/ギヨーム・ル・ブラン・文, 伏見 操・訳/岩崎書店/2017. 1/¥1300/(366)
	YA	『女も男も生きやすい国、スウェーデン』(岩波ジュニア新書)/三瓶 恵子・著/岩波書店/2017. 1/¥880/(367. 23893)
	YA	『自分のことがわかる本 ポジティブ・アプローチで描く未来』(岩波ジュニア新書)/安部 博枝・著/岩波書店/2017. 9/¥800/(159. 7)
	YA	『リアル人生ゲーム完全攻略本』(ちくまプリマー新書)/架神 恭介ほか・著/筑摩書房/2017. 10/¥840/(159. 7)
	YA	『大合格 参考書じゃなくオレに聞け！』/中田 敦彦・著/KADOKAWA/2017. 4/¥1200/(159. 7)
	YA	『宗教ってなんだろう？』(中学生の質問箱)/島藺 進・著/平凡社/2017. 2/¥1400/(160)
	YA	『僕たちが何者でもなかった頃の話しよう』(文春新書)/山中 伸弥ほか・著/文藝春秋/2017. 2/¥700/(159. 7)
	YA	『ぼくたちはこの国をこんなふうにあつめることに決めた』(集英社新書)/高橋 源一郎・著/集英社/2017. 12/¥860/(913. 6)
	高校	『「今、ここ」から考える社会学』(ちくまプリマー新書)/好井 裕明・著/筑摩書房/2017. 1/¥820/(361)
	高校	『考えよう！女性活躍社会 3 データでみる女性活躍社会(全3巻)』/孫 奈美・編/汐文社/2017. 4/¥2400/(366. 38)
	高校	『大人のための社会科 未来を語るために』/井手 英策ほか・著/有斐閣/2017. 9/¥1500/(301)
	高校	『命の意味命のしるし』(世の中への扉)/上橋 菜穂子ほか・著/講談社/2017. 1/¥1200/(910. 268)

### <自然>

★	YA	『宇宙には、だれかいますか？ 科学者18人にお尋ねします。』/佐藤 勝彦・監修/河出書房新社/2017. 2/¥1500/(440. 4)
★	YA	『深読み！絵本「せいめいのれきし」』(岩波科学ライブラリー)/真鍋 真・著/岩波書店/2017. 4/¥1500/(457)
★	高校	『バッタを倒しにアフリカへ』(光文社新書)/前野ウルド浩太郎・著/光文社/2017. 5/¥920/(486. 45)
	YA	『時間ってなに？流れるのは時？それともわたしたち？』(10代の哲学さんぽ)/クリストフ・ブトン・文, 伏見 操・訳/岩崎書店/2017. 2/¥1300/(112)
	YA	『ざんねんないきもの事典 続 おもしろい！進化のふしぎ』/今泉 忠明・監修/高橋書店/2017. 6/¥900/(480)
	高校	『数学ガールの秘密ノート 積分を見つめて』/結城 浩・著/SBクリエイティブ/2017. 7/¥1500/(410. 4)

高校	『眠れなくなるほど面白い図解生物の話』/廣澤 瑞子・監修/日本文芸社/2017. 12/¥680/(460. 4)
----	---

### <学校・読書>

★	YA	『読みたい心に火をつけろ！ 学校図書館大活用術』(岩波ジュニア新書)/木下 通子・著/岩波書店/2017. 6/¥900/(017. 4)
★	YA	『正しいコピーのすすめ 模倣、創造、著作権と私たち』(岩波ジュニア新書)/宮武 久佳・著/岩波書店/2017. 3/¥860/(021. 2)
★	高校	『大人を黙らせるインターネットの歩き方』(ちくまプリマー新書)/小木曾 健・著/筑摩書房/2017. 5/¥820/(007. 3)
★	YA	『今すぐ読みたい！ 10代のためのYAブックガイド150！ 2』/金原 瑞人ほか・監修/ポプラ社/2017. 11/¥1800/(019. 5)
★	YA	『13歳からの夏目漱石 生誕百五十年、その時代と作品』/小森 陽一・著/かもがわ出版/2017. 3/¥1600/(910. 268)
★	高校	『夏目漱石解体全書』/香日 ゆら・著/河出書房新社/2017. 5/¥1300/(910. 268)
★	高校	『大人のための国語ゼミ』/野矢 茂樹・著/山川出版社/2017. 7/¥1800/(816)
★	YA	『人生を豊かにする学び方』(ちくまプリマー新書)/汐見 稔幸・著/筑摩書房/2017. 10/¥780/(002)
★	YA	『正しい目玉焼きの作り方 きちんとした大人になるための家庭科の教科書』(14歳の世渡り術)/森下 えみこ・イラスト, 毎田 祥子ほか・監修/河出書房新社/2016. 12/¥1300/(590)
	YA	『金原瑞人(監修)による12歳からの読書案内 多感な時期に読みたい100冊』/金原 瑞人・監修/すばる舎/2017. 5/¥1500/(019. 5)
	YA	『短歌は最強アイテム 高校生活の悩みに効きます』(岩波ジュニア新書)/千葉 聡・著/岩波書店/2017. 11/¥860/(370)
	YA	『漱石先生の手紙が教えてくれたこと』(岩波ジュニア新書)/小山 慶太・著/岩波書店/2017. 8/¥880/(910. 268)
	YA	『13歳からの「学問のすすめ」』(ちくまプリマー新書)/福澤 諭吉・著, 齋藤 孝・訳・解説/筑摩書房/2017. 9/¥840/(002)
	YA	『高校図書館デイズ 生徒と司書の本をめぐる語らい』(ちくまプリマー新書)/成田 康子・著/筑摩書房/2017. 6/¥840/(017. 4)
	YA	『大人になって困らない語彙力の鍛えかた』(14歳の世渡り術)/今野 真二・著/河出書房新社/2017. 11/¥1300/(814)

### <その他>

★	高校	『米澤穂信と古典部』/米澤 穂信・著/KADOKAWA/2017. 10/¥1100/(913. 6)
★	高校	『洞窟ばか すきならば、前人未到の洞窟探検』/吉田 勝次・著 /扶桑社/2017. 1/¥1400/(454. 66)
	YA	『甘くてかわいいお菓子の仕事 自分流・夢の叶え方』(14歳の世渡り術)/KUNIKA・著/河出書房新社/2017. 3/¥1300/(289. 1)

高校	『くらべる時代 昭和と平成』/おかべ たかし・文/東京書籍/2017. 3/¥1300/(210. 76)
高校	『みみずくは黄昏に飛びたつ』/川上 未映子・訊く, 村上 春樹・語る/新潮社/2017. 4/¥1500/(910. 268)
高校	『藤井聡太 名人をこす少年』/津江 章二・著/日本文芸社/2017. 9/¥1300/(796. 021)

**公益財団法人図書館振興財団**  
**第18回 子どもの本 この1年を振り返って 2017年 講演録**  
**■ヤングアダルトの部■**

講演：公益社団法人 全国学校図書館協議会 スーパーバイザー 高見 京子

皆さんこんにちは、高見京子です。昨年に続き、ヤングアダルトの部を担当するため岡山より来ました。私は5年程前まで、高校で司書教諭を中心に、学校図書館での活動に携わってきました。退職後は、全国学校図書館協議会（以下「全国SLA」）のスーパーバイザーなどを行っています。現在は大学で司書教諭取得課程の非常勤講師を務めています。

**■「若者」の活躍**

昨年同様に今年も若者が活躍したなど個人的には感じています。2月には小説すばる新人賞を高校生が受賞し（注1）、中学生の書いた『さよなら、田中さん』も話題です。棋士の藤井聡太君も度々話題となりましたが、その背後には多くの将棋を愛する少年たちがいます。また、登美丘高校ダンス部などがYouTubeで注目され、紅白歌合戦にも登場しましたので、皆さんご存知のことと思います。ただ、高校の現場にいた者から見ると彼女たちは特別な存在ではなく、「やっと社会があのような子たちに目を向けてくれた」という印象があります。ダンス部だけではなく、新体操、演劇、合唱、スポーツはもちろんのこと、様々な文化部が大活躍していて若者は本当にすごいと思います。彼らの活動への認知が広がっていったらよいなという思いで見ました。

昨年度YAの発表を行った際、全国SLAによる全国読書調査の統計グラフをお見せし「若者の『読書離れ』は世間で言われるほどではない」と申し上げましたが（注2）、今年2月の半ばぐらいに『週刊女性』でも若者の読書離れについての特集——女性の週刊誌が読書の特集するというのも少し目新しいことではあるのですが——がされていました（注3）。「読書離れは本当か」を検証するためにグラフも載せ、1か月間の平均読書量は10年間でゆるやかに増えていると説明しています。週刊誌にも取り上げられるだけ「若者の読書」の話題性を感じました。

それに関連してもう少しお話させていただくと、2020年には学習指導要領が改訂されます（注4）。2017年は小中学校、高校の学習指導要領改訂などを受け、「主体的・対話的で深い学び」に絡めて様々な本も出版されました。文部科学省の「子供の読書活動推進に関する有識者会議」では青少年への読書のきっかけ作りなども話題となり（注5）、体制的にも社会的にも若者と読書を関連付けた話も多くなっています。

「主体的・対話的で深い学び」を行うには、まず本を読む必要がある。そうしなければ読む力も書く力も考える力も身に付かない。学校ではなく塾などが懸命に読書指導を行っているといった状況もあります。

今の若者の文化は、本やマンガ、映画など様々なメディアが連動して動いているのが特徴です。今年のフィクションについて言えば、今一つ面白くないというのが印象です。「中高校生の読み



物には、友情と恋愛と進路と家族などのテーマを入れておけばよい」という安易なものを感じます。それらのテーマにLGBTや震災、障害といったテーマを絡め、互いに似通ったストーリーも多く、幼い頃に本を読んでハラハラドキドキする、そういう本をもっと求めたいし、若者に媚びないで作品を作っていただきたいなあと思います。

そんな中、高校図書館現場の司書さんたちも、「この本が面白い」というお薦めYAの紹介＋評価をしています。その1つは、「埼玉県の高校図書館司書が選んだイチオシ本」という取り組みです（注6）。「県民の方々に、学校司書の必要性和「人」のいる高校図書館の楽しさを感じてもらう」というコンセプトで活動されています。また、岡山では「岡山の高校図書館プレゼンツ「でーれーBOOKS」」（注7）といった、ノンフィクションに限ったおすすめ本コンテストの取り組みもあります。

## ■YAが主人公

本の紹介に移ります。最初に紹介するのは、最初に紹介した『さよなら、田中さん』。あさのあつこさんが「鳥肌の立つような才能」と絶賛し（注8）、西原理恵子さんが挿絵を描いた14歳の中学生の作品です。「12歳の文学賞」（小学館主催）を受賞した表題作などを含む全4話を収録した1冊です。

母子家庭の小学6年生の田中花実さんは、工事現場で働くお母さんと2人暮らし。ピンボーながらも、底抜けに明るいお母さんとたくましく生きています。リストラやいじめなど辛い現実を描きながらも、全てをユーモアに包んでしまうお母さんの存在がとにかくよいです。お母さんの口癖は「もし死にたいくらい悲しいことがあったら、とりあえずメシを食え。」（p. 238）。ユーモアとペーソスを交えた物語で、とても14歳とは思えない筆力です。

そして、小説すばる新人賞を受賞した『星に願いを、そして手を。』です。実際にモデルとなった天体望遠室があるようですが、本当に宇宙の好きな子どもたちが集まって、将来宇宙の研究をしたいと話しています。しかし現実はなかなか思い通りにいかず挫折したり、夢を諦めざるを得なかったりします。その若者たちの他にも、プラネタリウムの所長さん、高校の物理の先生などが登場しますが、それぞれ歳を取っても当時の夢を持ちつつ今がある。夢に見る、夢をつかむ、夢をあきらめる、夢に破れる……。人それぞれ、様々な夢の形があります。本作と『さよなら、田中さん』は同世代の子どもたちが、同世代の人たちを主人公とし、同世代の人たちに向けて書いた、本当にお薦めの本です。

以前話題となった『ワンダー』（ほるぷ出版、2015年7月刊）のその続きとなる物語が刊行されました。『もうひとつのWONDER』です。この作品では、『ワンダー』で障害を持つ主人公の少年オーガストを取り囲む3人の子どもたちに焦点を当てて書かれています。1人目はジュリアンといういじめっ子。2人目は幼なじみのクリストファー。3人目は同級生のシャーロット。いじめる子には本人なりの理由があります。また、「悪い」と思いつつ謝れない気持ちもあります。自身の悩みもあり、その辺りが本当によく描かれています。この物語では周囲の大人が結構厳しいです。「君は間違っている、謝らなくちゃいけない」ときちんと言う。そしてオーガ

ストに謝るまでの、その葛藤が本当に伝わってきました。人は成長するにしたいが、友人関係も変わっていきます。相手が障害を持っているか否かに関わらず、幼い頃の友人関係は変わっていくものです。オギーの周囲の人々を描くことによって、障害やそれに関わる少年少女の気持ちがよく描かれている作品であると思いました。

続いて、『か「」く「」し「」ご「」と「』』です。住野よるさんは、高校生・大学生の間で大人気で、ビブリオバトルでも紹介される本に必ず登場します。『君の隣臓をたべたい』（双葉社、2015年6月刊）が映画化されたことも大きいですが、小中学生、高校生などの気持ちがよく描かれています。読むと、高校の頃に感じた胸がキュンとする気持ちが私でも蘇ってきます。今回の『か「」く「」し「」ご「」と「』』では5人の男女の誰にも言えない秘密、隠し事が微妙に重なったり離れたたり、誤解があったりすれ違ったりしながら、それぞれの関係や感情がよく表わされていると思います。ふんわり温かな青春ストーリーです。

『河童のユウタの冒険 上・下』。斎藤惇夫さんの小説です。少し前に、斎藤さんのトークイベントに行きました。そこでご本人が「今までの仕事の集大成として書いた」とおっしゃっていました。本書冒頭では、平凡社『児童百科事典』5巻にある「カッパ」についての説明が引用されています。その中で「河童は、いまもちゃんと川や沼にすんでいる」と書かれています。斎藤さんは、その世界をきちんと書きたいと力説されていました。宮沢賢治のお話やその他のファンタジー、そういった全てのものへのオマージュが込められていて、その思いが強すぎて削れずに長くなってしまったそうです。語り口もとても良く、読み聞かせの中で「命とは何なのか」「自然とは何なのか」を考えていってもいいかと思います。

次に紹介するのは『かがみの孤城』。2017年のYAはこの本なしには語れないと思います。先程お話した「埼玉県の高校図書館司書が選んだイチオシ本」でも1位に選ばれた作品で（注9）、雑誌やTVでも注目されました。学校に居場所がない、辛い思いをしている子どもたちが鏡を見ていくとその世界に入っていく。そこに自分と似たような境遇の子どもたちが集まってきます。ファンタジー的なパラレルワールドです。自分は1人ではない、ちゃんと支えてくれる人がいるという思いと共に終わるお話です。少々趣向を凝らし過ぎかなという印象もありますが、終わりの「大丈夫だよ」という言葉が心に残ります。これと似た物語に、2016年に野間児童文芸賞を受賞した山本悦子さんの『神隠しの教室』（童心社、2016年10月刊）（注10）という作品もありました。

『九時の月』。こちらは外国文学です。「九時の月」とは主人公の少女ファリンが友達のサディエラと交わす約束です。毎晩9時に月を見れば、2人は「どんなに離れてても、心はいっしょにいられる」（p. 111）。イランを舞台にした同性愛の物語ですが、それを強く意識させません。少女たちが出会い、お互いに尊敬の念を抱きつつ友情が深まったという感じがあるので不思議でも何でもない。ただ、これがイランという国では罪になる。物語の中でそれが描かれ、あとがきには、世界各地には同性愛で処罰される国はまだあると書かれています。とても悲しい物語です

が、人間の心の絆がスーッと入ってくるお話でした。

続いて『紫式部の娘。賢子はとまらない!』。この作品の前に『紫式部の娘。賢子がまいる!』(静山社, 2016年7月刊)が出版されました。少しライトノベル風でほとんど現代のような物語ですが、友情・恋愛を絡めながらも史実に目配せしていて、平安時代がよく分かる作品です。以前刊行された『なんて素敵にジャパネスク』(氷室冴子著)にも似た感じの物語で、楽しく読みました。

次に村上しいこさんの『青春は燃えるゴミではありません』。『うたうとは小さいのちひろいあげ』(講談社, 2015年5月刊)『空はいまぼくらふたりを中心に』(同左, 2016年8月刊)に続く、短歌甲子園に出場する高校生たちの物語の完結編です。

このタイトルは「青春は燃えるゴミではありません。「区別拠点」で収集します」(p. 275)という短歌から取ったものです。あとがきでは「ふる雨に満たされるまで気づかない運動場のへこんだところ」(p. 300)など、実際に「牧水短歌甲子園」で高校生たちが詠んだ短歌も紹介されていますのでご覧になってみてください。やはり同世代が主人公の物語は、子どもたちが共感して読めるのではないかと思います。

## ■古典復活

古典復活の流れとも関連する『漫画君たちはどう生きるか』。

80年前に出版された物語が漫画となり、売り上げ100万部を超える大ヒット作品となっています。舞台は戦前ですが、中学生を対象に書かれた作品ですので、YAへのお薦め図書としては外せません。ただ、中高校生はこの作品を読まない。読書感想文でもこの本を選ぶことはあまりないので、実際どれだけの若者がこの本を買ったか知りたいところです。この本のヒットをきっかけに、過去の名作を若者に広めるための工夫と名作を語り継ぐ大切さを感じました。叔父さんに「コペル君」とあだ名を付けられた少年が、悩みや疑問を叔父さんに語り、叔父さんがそれに答えていきます。自然科学、哲学、歴史といった難しいテーマが身近で分かりやすく伝えられています。大人たちや学校図書館も、この本のようにありたいと思います。

YA世代が読みやすいようマンガやイラストで効果的に表現するという工夫は、『文豪ノ怪談ジュニア・セレクション』でも使われています。このシリーズでは「夢」「獣」「恋」「霊」なども刊行されていますが、今回紹介するのは「呪」。「呪い」をテーマに、小泉八雲や三島由紀夫などをはじめとする作家の短編を収録しています。表紙の絵は『坂の上図書館』(さ・え・ら書房, 2016年7月刊)などの挿絵を描いた羽尻利門さんです。本文全てにルビが振ってあり、語句の説明もされています。単純な現代語訳ではなく、原文を大事にしつつ意味も分かるように作られています。物語の怖さも十分味わえて面白かったです。

『竹久夢二童話集』。竹久夢二も岡山出身ですね。表紙もきれいです。竹久夢二は美人画で有名ですが、グラフィックデザインの先駆者でもあり、子ども向けの本に本格的に取り組んだ最初

の画家でもあります。これも先ほどお話した『文豪ノ怪談ジュニア・セレクション』と同じように、文章全てにルビが振ってあります。大正時代の文体の良さをそのまま生かしつつ、読みやすくしていると思います。収録されている52編のお話には全て夢二による挿絵が挿入されています。

## ■漫画・絵本・SF

続いては、中高校生が好きなSFです。古野まほろさんの『禁じられたジュリエット』。読み応えがあり面白い作品でした。退廃文学を読んではいけない、SFなどもってのほかという時代に生きる女子高校生たちの物語です。そのルールを犯してこれらの小説を読んだ少女たちに対し学校が考え出したのは、彼女たちを更生させるため、友人たちに指導させるという方法でした。監視者と囚われる者との2つのグループに分かれ、最初は互いにそれぞれの役割を演じていますが、その行動がだんだんエスカレートしていきます。それぞれの立場の言葉で書かれているため、読んでいる内に「こんな状況に置かれたら、どんな信念を持っていても変えざるを得ない」という気持ちになってきます。物語は二転三転し、どんでん返しも何度もあるので、とてもハラハラドキドキします。物語を一貫したテーマは、「本を読めるということは、どういうことなのか」「本とは何か」そして「本を自由に読める喜びと未来へ向かう力」です。

高校のビブリオバトル部を舞台にした、山本弘さんの本の4冊目が出版されました。

『君の知らない方程式』です。高校の部活小説でもあり、ライトノベル風で楽しく読めます。今回のテーマは「ライトノベルとマンガ」です。これを読むとライトノベルやマンガをどのように捉えるか、その参考になるかもしれません。途中、登場人物のこんな声があります。「世の中にはつまらない小説もつまらない映画もいっぱいあるのに、小説とか映画とかいうジャンル全体を否定する人っていないじゃないですか。なのに、ラノベってだけでひとくくりにされてすべて否定されるって、納得いきません」(p. 138) ビブリオバトルを行うための原稿や、様々な本の紹介もあり、本への愛情にあふれた青春小説になっています。

『世界が若かったころ』。「世界ショートセレクション」シリーズの1冊です。チェーホフやマーク・トウェインなど他にも色々刊行されていますが、これはジャック・ロンドンの作品を集めたものです。新聞配達や金鉱探しを行ったり、北極圏で過ごしたりと様々な体験をしたジャック・ロンドン。極北などを舞台にした様々な短編が収録されています。挿絵はヨシタケシンスケさん。各作品の扉絵が物語を象徴的に表しています。「世界が若かったころ」という短編は、「いつのどこのお話なのだろう」と思いつつ読み進めていくと、意外な展開に。「ジキルとハイド」にも似た、独特の雰囲気を持つ面白いショートストーリーです。

ヨシタケシンスケさん繋がり、『あるかしら書店』。ユニークな本をたくさん揃えている1軒の書店。こんな本あるかしら、と様々なお客さんがやってきます。例えば「作家の木」の育て方」という本。好きな本の間にタネをはさんで土に埋めると、そこから育つ木は……？ 中高校生にはビンゴかもしれません。大学生にも大人気です。

『生きる』。谷川俊太郎さんの詩に絵が付けられ、1冊の本になりました。「いま生きているということ それはのどがかわくということ 木漏れ日がまぶしいということ ふっと或るメロディを思い出すということ くしゃみをする事 あなたと手をつなぐこと」

私は時々、詩の授業しながら生徒と一緒に絵を描いたりしましたが、親和性がとても高い感じがします。中高校生になると、絵はあまり必要ないかもという声もありますが、私自身は、詩に絵を付けた絵本をどんどん出版してほしいと思っています。

続いて、若い女性が気に入るのではないかとと思われる、『そのままのキミがすき』。『あらしのよるに』のきむらゆういちさんの作品です。君が「寝起きの グシャグシャの頭でも……」「泣いたあとの真っ赤にはれた目をしてても……」と続いて、最後に「それがキミなら……」「そのままのキミでいいんだよ。」「キミがすきだから……」。これだけのシンプルな絵本です。もう一つ、この本の対とも言える『あなたなんてだいきらい』（2017年2月刊）という本もあります。リラックス系というより、癒し系などが意外と中高校生に好まれるので、こういった本がたくさんあってもよいのではないかと考えています。

## ■大人も一緒に

中高校生に選ばれる本は、ほとんど大人と一緒にです。私たちが面白いと思う本は中高校生も面白いと感じるようです。例えば、益田ミリさんも若い女性にお薦めかもしれません。その中から『今日の人生』。「自分の手帳に自分の手で「タモリ」と書いてあり」、しかしそれが何だか思い出せない（p. 146）。気づくとそれは……。日常のささいなことでふっと気持ちが楽になる、益田ミリさんの1冊です。

続いて大人気の『もし文豪たちがカップ焼きそばの作り方を書いたら』。続編も出ていて人気です。村上春樹、太宰治、夏目漱石から、星野源や小沢健二などアーティストまで、それぞれがカップ焼きそばの作り方を書いたらどうなるかという100人の文体模写です。例えば「麺の細道」。「キッチンや 薬缶飛びこむ 水の音」という芭蕉風のものや（p. 22）、「もし鳥山明が芥川龍之介を描いたら…を田中圭一が描いたら」（p. 170～171）というイラストなど、思わず笑ってしまうものばかりです。本当に色々なジャンルが揃っているので、もし知らない作家などがいても「この人はどういう人だろう？」とそこから本を読むということもありかなと思います。

『ツバキ文具店』（2016年4月刊）の続編、『キラキラ共和国』が刊行されました。鎌倉の文具店で代書屋をしていた「ポッポちゃん」こと鳩子。続編では、鳩子は子連れ男性と結婚。前作では各人物に焦点が当てられていましたが、今回は鳩子本人の「妻」そして「母」としての想いが中心となっています。木漏れ日や風のささやきなどと共に鎌倉の風景がやさしく、人間模様と相まってまさにキラキラ共和国。今回も自筆の手紙がよいです。

『たゆたえども沈まず』。これも「2018年本屋大賞」ノミネートとなった本です（注11）。

ゴッホは浮世絵の影響を受けたといわれますが、ゴッホと彼を支え続けた弟テオ、ゴッホと浮世絵を結びつけた日本人の画商林忠正、弟子の重吉との交流を描いた物語です。ゴッホと浮世絵との関係、弟テオの兄を想う気持ちがひしひしと伝わってきて、ゴッホの絵や、北斎の浮世絵などを見る楽しみも増します。

続いて『[失われた地図](#)』。日本各地の旧軍部があった地の裂け目に、かつてそこに生きた人々の記憶が形を成して現れる。その裂け目を封じるため、記憶の化身「グンカ」たちと戦う遼平と鮎観。2人の間に生まれた俊平によって運命の歯車が狂い始めます。ファンタジーというか、元々の恩田陸さんらしいというか、恩田陸という作家の世界の広さを改めて感じます。現代への警告と共に希望も感じる作品です。

『[チェーン・ピープル](#)』は『[となり町戦争](#)』（集英社、2005年1月刊）を書いた三崎亜記さんの短編集です。日常に潜む不条理を描く三崎亜記さんは発想の面白い作家さんです。タイトルになっている『チェーン・ピープル』とは、全国各地どこにでもあるチェーン店を人とかけています。全く違う人間なのに、行動やクセなどになぜか共通点のある「チェーン・ピープル」。そもそも「個性」とは一体何なのか。人は誰かをまねて、誰かのようになろうとする。そのことも含め、人間の個性について考えさせられます。

続いて『[百貨の魔法](#)』です。表紙がとてもきれいな本です。時代に乗りきれない星野百貨店。エレベーターガール、新人コンシェルジュ、フロアマネージャー、テナントのスタッフ、創業者の一族らのデパートを愛し、守ろうとする気持ちなどが描かれた物語です。百貨店に住みつく「白い猫」の話がファンタジックで、大人のメルヘンという印象です。

## ■人生・社会

ノンフィクションに移ります。

まずオススメは『[ナビラとマララ](#)』。マララ・ユスフザイさんは、イスラム過激派による銃撃を受けて重症を負いつつも、屈することなく教育権利獲得のための運動をしました。一方、やはり教育を受けたいと切望していたナビラ・レフマンさんも無人ドローンによる攻撃を受けて、祖母は亡くなり、自らも大きな怪我を負います。同じような境遇に置かれた少女。マララさんはノーベル平和賞を受賞しましたが、ナビラさんについての報道はありません。この2人の違いは何か。それは、ナビラさんを襲ったのがアメリカのドローンであったということです。視点が変わると、正義の位置も変わるということがこの本では分かります。また、イスラムの歴史や現状についても分かりやすく説明されています。

続いて『[虹色のチョーク](#)』。TV等でも話題になった「ダストレスチョーク」という商品でチョーク業界1位を誇る、川崎市の日本理化学工業株式会社を取り上げたノンフィクションです。作業員の7割が、知的障害を持った方々ということでも注目されました。人にはそれぞれの能力があり、それを発揮できる場を作ると十分利益になる。福祉で守られるのではなく、きちんと働

いて税金を納める。この会社にはそんな社長さんの思いが込められています。人の幸せとは人の役に立つこと、人に必要とされること。それを保証しつつ、お金を稼ぐということの大切さについても伝えている感動のノンフィクションです。

『対話する社会へ』。2017年のキーワードの1つは「対話」であったように思います。学習指導要領改訂にもこの「対話」という言葉が使われています。同時に政治などでは「対話より圧力を」などといった言葉も聞かれます。著者の暉峻淑子さんは「対話」の持つ力を、自身の体験や具体例を交えて丁寧に語っていきます。「戦争・暴力の反対語は、平和ではなく対話」（「まえがき」より）であると綴っています。

『ドリーム』。2017年、中高校生に観てほしい映画と言えばこの『ドリーム』（監督：セオドア・メルフィ、2017年日本公開）でした。この本はその原作であり、コンピューターが導入される前のNASAを舞台にした実話です。人種差別が普通に存在した時代、黒人の女性が数学で宇宙開発を支えました。日本でのタイトルは『ドリーム』ですが、元のタイトルは『HIDDEN FIGURES』、「隠された人々」で、これらの女性たちを丹念に追い、歴史の中に埋もれさせてはならないとの著者の強い想いも伝わってきます。苦境の中でも能力を発揮してきた女性たちの姿は勇気を与えてくれます。

西原理恵子さんが若者に向けて書いた『女の子が生きていくときに、覚えていてほしいこと』。「性格悪い方が幸せになれるよ」、これは、性格のいい人は他人に幸せを譲るからというもの。「王子様を待たないで」、「あなたの人格を否定していい人なんて、いない」、「何があっても、最後は笑えると思っていれば、大丈夫」などの言葉は西原さん自身の体験とつながり、説得力を持って響いてきます。

次に『これを知らずに働けますか？』。昨年の「子どもの本」でYAの部の発表を行った際、岩波新書の『ブラックバイト 学生が危ない』（2016年4月刊）を紹介しましたが、この本では若者に向けて、労働状況について4コママンガなども交えて説明しています。夢を持ってやりたいことをやろうと考えても、現実には厳しいことが多々あるということ、また、このような状況は越える手段もあるという示唆に富んだ本です。

『ファニー13歳の指揮官』。先程フィクション部門でも触れていただきましたが、ナチスドイツ支配下のフランスを逃れ、子どもたちだけでスイスの国境を目指したユダヤ人少女の実体験に基づくお話です。第二次世界大戦中、フランスで暮らしていたファニー・ベン＝アミさんの話を聞いた後、物語として書き下ろした作品です。ユダヤ人迫害の嵐の中、子どもたちをスイスへ逃がす計画の途中で、引率役を引き受けていた青年が逃走してしまい、13歳のファニーは大勢の子どもたちの命を預かることとなります。まえがきに「これはホロコーストの物語ではありません。勇気と逃亡、そして命をかけた闘いの物語です」と書かれています。

『ある奴隷少女に起こった出来事』は「ジェイン・エア」（1847年）などの作品とほぼ同年代の、奴隷の少女ハリエットが自身の体験を綴ったお話です。アメリカでヒットし、2012年2月時点でKindleの世界古典名作ランキング11位という作品でした（p. 319「訳者あとがき」より）。堀越ゆきさんはコンサルティング会社に勤める方で翻訳家や作家ではありませんが、この物語を読んで衝撃を受け、「気づいた私が今やらなければ、いったいつ、誰がやってくれるのだろうか」（p. 337）という強い思いから本書の翻訳を行いました。ハリエットの生々しい体験と共に、彼女がそれにどう打ち勝ったのか、その闘いが綴られています。この度、新潮文庫として刊行され読みやすい形となっています。

実体験を綴った作品をもう1つ紹介します。『マーシャの日記』です。1941年リトアニアにもナチスが侵攻し、多くのユダヤ人が殺されました。半年間で約10万人が銃殺されたと言います。当時マーシャは13歳。「もし、生き残ったら、自分で話そう。そうでなかったら、これを読んでもらおう。だが、とにかく知らせなければ！絶対に！」そんな強い思いから、5年間イディッシュ語で日記を綴ります。彼女はホロコーストを生き延び、2016年に亡くなりました。本書には生還後に撮られたマーシャの写真や、地図なども収録されています。

続いて、アーサー・ビナードさんの『知らなかった、ぼくらの戦争』。文化放送の番組「アーサー・ビナード『探しています』」を書籍化したものです（目次より）。1967年生まれのビナードさんは、日本語で考えると「戦後世代」。しかし英語に頭を切り替えると、1967年というベトナムへの攻撃が激しかった年に生まれた彼は、「戦中生まれ」。「日本語の「戦後」に遭遇して、初めて「戦後のない国」に自分が育ったことに気づいた。少し距離が取れたおかげで「戦争とはいったいなんなのか？」という疑問を抱えることができた」（p. 3）と書いています。真珠湾攻撃などアメリカからの視点も含め、世界的な視点で書かれているため、私自身も知らなかったことが本当にたくさんありました。ビナードさんの目を通し新たな観点で、より普遍的な平和や命を考えることができます。最後には高畑勲さんとの対談も収録されています。

「10代の哲学さんぽ」からは『働くってどんなこと？人はなぜ仕事をするの？』が出版されました。『時間ってなに？流れるのは時？それともわたしたち？』（2017年2月刊）もよい本でしたが、この本では「働く」ということや「労働」について様々な視点から考えることができます。「労働が何かをつくりだすとしても、それは次にそのものを破壊するためでしかない。」といったハンナ・アーレントの言葉なども紹介されています。

## ■自然

『宇宙には、だれかいますか？』。本当に宇宙には生物がいるのかということを経験した方が研究していますが、この本ではアストロバイオロジー（宇宙における生命の研究（p. 3））など、最先端の研究を行う科学者など18名に「生命の定義」とは「地球生命はどこからきたのか」「地球外生命体が発見されるのはどんな所か」など同じ質問を投げかけ、それぞれ回答してもらうという形をとっています。質問の最後では「コミュニケーションをとってみたい地球外生命体



の姿」もそれぞれの科学者によって描かれ面白いです。

『バッタを倒しにアフリカへ』は、中央公論新社の「新書大賞2018」を受賞した本です(注12)。「バッタに食べられたい」(p. 4)と思うほどバッタ大好きな青年が、バッタで生きていくために奮闘する、出版社曰く「科学冒険就職ノンフィクション」です。バッタについての科学読み物というよりは、バッタ研究で生きてくためにどうしたらよいかという職業本のような側面もあり、様々な観点から楽しめます。焦点が定まらないところが不思議でもあり、面白いところでもある本です。

## ■学校・読書

『読みたい心に火をつけろ!』は、現役の高校学校図書館司書を務める木下通子さんが、学校図書館の様子を臨場感溢れる筆致で紹介しています。学校司書の日常を描きつつ、今の高校生が何を考えどのような本が好きなのか、大人が読むと等身大の高校生の姿がよく分かり、YAの人たちが読めば共感すると同時に、本を読みたくなくなるのではないかと思います。10年間の「埼玉イシオシ本」の紹介などもされており、ちょっとしたブックガイドにもなっています。子どもと本への愛情が溢れた本です。

続いて『正しいコピーのすすめ』。「コピー」することは悪いこととされているけれど、人は「まね」＝「コピー」をすることで成長する。コピーなくして文化の進展はありません。しかし、その著者に敬意を払わなければならない。「コピー」を悪いと完全否定するのではなく、表題通り「正しく」コピーをしようという本です。本の帯で津田大介さんが推薦しているように、今の時代の「著作権の教科書」であるとも言えます。

『大人を黙らせるインターネットの歩き方』。大人は若者のインターネットの使い方についても批判しがちです。しかし実のところ、大人もネットやスマホについてよく分かっていない。「何時間もスマホばかり！他にやることあるでしょ」と親に言われたら、「スマホで『遊んでいる』時間は一日に何時間？ っって聞いてくれないかな」と返そうなど(p. 30)、大人を黙らせるための返答などをまとめつつ、学校で行った講演「正しく怖がるインターネット」も収録。どうすればインターネットを安全に利用できるのか。若者に寄り添いつつ、大事なことを伝えている本です。

『今すぐ読みたい！10代のためのYAブックガイド150！ 2』。27人の「本のプロ」が2011年以降の本から選んだYA本を紹介。『蜜蜂と遠雷』(幻冬舎、2016年9月刊)、『フラダン』(小峰書店、2016年9月刊)、『ハリネズミの願い』(新潮社、2016年6月刊)、『シヤクルトンの大漂流』(岩波書店、2016年10月刊)など、昨年刊行された数々の良作も含まれています。1巻は2015年11月に刊行されました。「あとがき」で監修のひこ・田中さんが、「鮮度を保つ一つの方法は、新しいブックガイドを出すこと」と書いています。「ブックガイドとブックガイドが繋がっていくことによって、その時代、その時代の「新鮮さ」を示す史料

となる」とも。図書館の現場も古くよいものに加えて、新しい作品も伝えていく努力をしなければならぬと思います。

2017年は、夏目漱石が生誕150年という年でもありました。そこで『13歳からの夏目漱石』と『夏目漱石解体全書』。

最初の『13歳からの夏目漱石』は、長野県の中学生や高校生が対象となった授業を元とした本です。政治的な背景も取り上げて夏目漱石の姿をとらえようとしており、タイトルに「13歳からの」と付いていますが、かなり難しいかもしれません。巻末には授業に参加した学生たちの感想もまとめられています。

『夏目漱石解体全書』では、漱石の人柄や交友関係、作品など様々な事柄についてマンガなどを交え解説。こちらはとても読みやすく、分かりやすく、1冊によくコンパクトにまとめられていると思います。漱石の全体像をつかむのにオススメです。

『大人のための国語ゼミ』では、相手に伝わる分かりやすい話し方や書き方について説明。言いたいことをきちんと相手に伝えるには、「相手のことを考える」「事実なのか考えなのか」「言いたいことを整理する」「きちんとつなげる」「文章の幹を捉える」の5つが重要であるとして詳しく解説し、とても勉強になる本です。理解する、納得することとは、まず最初に相手のことを考えることであると伝えている本です。国語の授業などの確認にもなるでしょう。

続いて『人生を豊かにする学び方』。教育学者である汐見稔幸氏が「なぜ学ぶのか」について若者に語りかけています。学ぶのは自由になるため、未来の自分の選択肢を増やすためである、等々。学校から生涯にわたる指針が書かれています。今の教育改革や学校での新しい指導についての解説もなされているので、若い先生なども読むと参考になることも多いと思いました。

『正しい目玉焼きの作り方』。「14歳の世渡り術」シリーズからの1冊です。タイトルを見ると料理本のようなのですが、衣服や食事をはじめ1人で生きていくのに大事なことを「気持ちよく楽しく暮らすことを、何よりも大切に」(p. 213)をキーワードに、とてもコンパクトにまとめた1冊です。高校卒業後、巣立っていく子どもたちにそっと手渡したい趣の本です。

## ■その他

続いて「その他」でまとめました。

『米澤穂信と古典部』。ミステリー作家・米澤穂信さんについて解体新書のような形でまとめた本です。米澤さんは若者が大好きな作家の1人で、ビブリオバトルなどでも人気です。「〈古典部〉シリーズ15年のあゆみ」や北村薫さんや恩田陸さんなどとの対談など色々収録。写真もたくさん掲載されていて楽しい本です。

最後に紹介するのは『洞窟ばか』。なぜ洞窟を探検するのか。それは正真正銘の未知の世界で

洞窟探検が好きだから。洞窟探検家である著者が自身の体験を綴っています。自分がやりたいか、やりたくないか。やりたければやるしかない。単純明快。『バッタを倒しにアフリカへ』もそうですが、リスクばかり考えず、好きなことをもっと自信をもってやっ払いこうよと呼びかけています。若者への応援歌でもあるように思います。

以上、皆様どうもありがとうございました。

(於：株式会社図書館流通センター 2018年3月12日・13日)

※本図書リストおよび講演録の無断転用・複製は固くお断りいたします。

注

1) 集英社 「RENZABURO」

<http://renzaburo.jp/aoba/>

最終確認日：2018年6月11日

2) 図書館振興財団 「イベント情報」

「【講演録】「子どもの本 この1年を振り返って 2016」

ヤングアダルトの部 講演録」 p. 1, 7

<https://www.toshokan.or.jp/events/>

掲載日：2017年6月7日

3) 『週刊女性』2018年2月13日号 および 『週刊女性PRIME』

「活字離れ」は本当か？出版業界が縮小の一方で、読書イベントは活況の背景」2018年3月18日

<http://www.jprime.jp/articles/-/11607>

最終確認日：2018年5月16日

4) 文部科学省 「学習指導要領「生きる力」

「学校教育法施行規則の一部を改正する省令の制定並びに幼稚園教育要領の全部を改正する告示、小学校学習指導要領の全部を改正する告示及び中学校学習指導要領の全部を改正する告示等の公示について（通知）」(28文科初第1828号 平成29年3月31日)

[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2017/05/12/1384661\\_1\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/05/12/1384661_1_1.pdf)

最終確認日：2018年6月14日

「高等学校学習指導要領の全部を改正する告示等の公示について（通知）」(29文科初第1784号 平成30年3月30日)

[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2018/03/29/1384661\\_1\\_2\\_1\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2018/03/29/1384661_1_2_1_1.pdf)

最終確認日：2018年6月14日

5) 文部科学省 「子供の読書活動推進に関する有識者会議」

「議事要旨・議事録・配布資料」第5回

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shougai/040/giji\\_list/index.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/040/giji_list/index.htm)

最終確認日：2018年6月11日

6) 埼玉県高校図書館フェスティバル

「埼玉県の高校図書館司書が選んだイチオシ本2017」

[http://shelf2011.net/htdocs/index.php?page\\_id=185](http://shelf2011.net/htdocs/index.php?page_id=185)

最終確認日：2018年6月11日

7) 岡山県高教研学校図書館部会司書部会 「でーれーBOOKS」

<http://okayama-hslibrary.com>

最終確認日：2018年6月11日

8) 小学館 「お知らせ」

「14歳の作家に熱視線！「著者に会いたい」（朝日新聞）「王様のブランチ」（TBS系）など、多数のメディアで話題沸騰！鈴木りか著『さよなら、田中さん』」

<https://www.shogakukan.co.jp/news/165193>

最終確認日：2018年6月11日

9) 埼玉県高校図書館フェスティバル

「埼玉県の高校図書館司書が選んだイチオシ本2017」

[http://shelf2011.net/htdocs/index.php?page\\_id=185](http://shelf2011.net/htdocs/index.php?page_id=185)

最終確認日：2018年6月11日

10) 童心社 「ニュース」

「『神隠しの教室』第55回野間児童文芸賞の贈呈式が行われました！」

<https://www.doshinsha.co.jp/news/detail.php?id=1225>

最終確認日：2018年6月11日

11) BOOKSTAND 「ニュース」

「【「本屋大賞2018」候補作紹介】『たゆたえども沈まず』——誰も知らないゴッホの真実を描ききった傑作」

<https://bookstand.webdoku.jp/news/2018/04/02/170000.html>

最終確認日：2018年6月11日

12) 中央公論新社 「2018新書大賞」

[https://www.chuko.co.jp/special/shinsho\\_award/](https://www.chuko.co.jp/special/shinsho_award/)

最終確認日：2018年6月11日